

瀬戸内海沿岸の観光地における バリアフリー整備の状況とその評価について －宮島町を事例として－

上村 信行*・宇高 雄志**

1. はじめに

瀬戸内海沿岸地域には、史跡、名勝、文化財建造物、伝統的建造物群保存地区など歴史的観光資源が数多く点在している。その中でも瀬戸内海観光の拠点であるのは、言うまでもなく世界遺産に登録されている宮島であるといえる。この宮島は、国宝の厳島神社をはじめとする文化財建造物や重要天然記念物など多くの文化資源、自然資源が存在し、年間260万人の観光客が訪れる日本有数の観光地である。

宮島を訪れる観光客は、幼児連れの家族から、修学旅行の学生、高齢者まで年齢層も幅広い。宮島は、幅広い年齢層の観光客が安全で快適に観光できる環境づくりのために、厳島神社周辺の観光ルートの主要箇所においてバリアフリー整備を積極的に行ってきた。この結果、高齢者や車いす利用者も訪れることのできる観光地となっている。

これまでバリアフリー整備に関しては、国の政策として1994年にハートビル法、2000年に交通バリアフリー法が制定され、国レベルでの取り組みが行なわれるようになってきた。ハートビル法の対象施設は増加し、鉄道駅や公共交通ターミナル、旅客施設、駅前広場等のバリアフリー化も年々進みつつある。また、自治体レベルにおいても「人にやさしいまちづくり」条例の制定が進んでいる。国土交通省の「21世紀初頭における観光振興方策」においても、高齢者等が旅行しやすい環境づくりの重要性が指摘され、観光地のバリアフリー化の推進が必要であるとしている。このように、観光地のバリアフリー整備は、わが国が今後

取り組まなければ成らない重要な課題の一つであるといえる。

宮島内には、観光などサービス業に従事する者が多く居住しているが、その他にも古くからこの島に居を構え、現在もこの地で生活している者も多い。宮島町の人口は、2004年現在2,069人である。戦後一貫して人口は減少傾向にある。この人口の減少率は、広島県の他の島嶼町村と比較しても著しく、人口減少と同時に少子・高齢化が進み、65歳以上人口は全体の30.1%となっている。宮島は、観光の島でもあるが、瀬戸内海沿岸の島々と同様に高齢化が進む島の一つでもある。

そのような状況の中、この島を訪れる幅広い年齢層の観光客と島に住み続けている住民にとってこの島のバリアフリー整備はどのように写っているのだろうか。

本稿は、宮島（広島県宮島町）を調査研究対象としバリアフリー整備の実態を把握するとともに観光客側と住民側の両者の立場から、バリアフリー整備についての意識動向を探るものである。加えて、宮島のような歴史的遺産を持つ観光地におけるバリアフリー整備の必要性について考察しバリアフリー整備のあり方について論考するものである。

[本研究の目的]

- 目的1：バリアフリー整備の実態把握を行う。
- 目的2：観光客のバリアフリー整備に対する意識を把握し整備について評価する。
- 目的3：住民のバリアフリー整備に対する意識を把握し整備について評価する。

*広島大学環境安全センター **兵庫県立大学環境人間学部

[調査方法について]

調査方法1：本研究独自のチェックリストを用いて移動のしやすさ、案内情報のわかりやすさ、施設・設備の使いやすさに関してバリアフリー整備の実態調査を行った。

調査日時：調査は2003年1月28日（火） 天候：雨
調査対象：宮島の観光資源は広範囲に広がっているが、厳島神社の参拝目的の観光客が多く通行すると考えられるルートについて調査を行なった。

調査ルート（図1）：宮島棧橋→有の浦→御笠浜→厳島神社→社務所前→役場前→表参道商店街→宮島棧橋

調査方法2：宮島町役場、関連諸団体に対するインタビュー調査を行ないバリアフリーの整備状況について把握する。

調査方法3：観光客と地域住民向けに以下のアンケート調査を実施した。

●観光客アンケート調査

調査日：2003年10月11日（土曜）12日（日）

配布数：160票 回収数：137票 回収率：85.6%

配布回収方法：宮島棧橋内で岐路に立つ観光客に配布しフェリー下船後に宮島口にて回収した

アンケート内容：基本属性、旅行について、宮島のバリアフリーについて

●住民アンケート調査

配布日：2003年10月18日（土曜）19日（日）20日（月）

回収日：2003年10月22日（水）23日（木）24日（金）

配布数：245票 回収数：141票 回収率：57.6%

配布回収方法：商店街及びその周辺の各住宅に手渡し配布。留守宅には郵便受けに投函し後日回収

アンケート内容：基本属性、外出行動、宮島のバリアフリーについて、宮島のまちづくりについて

2. 観光ルートのバリアフリー整備の実態について

2-1) 移動のしやすさに関して

今回の調査ルートにおいて特に段差が認められ移動が困難であると思われる場所は、①宮島棧橋前と⑤厳島神社の出入口、⑥社務所前の3箇所であった。3箇所ともそれぞれスロープを設置し対応している。そのうち⑤厳島神社出口のスロープは、狭く急で法基準の勾配を満たしていない。調査ルート内のその他の場所は、数センチ程度のレベル差があるだけで、その段差もスロープなどの設置で対応している。

移動に関しては段差を気にせず宮島棧橋から厳島神社本殿内を通り、商店街を抜けて元の位置に戻ることができるような経路になっている。③有の浦から④御笠浜、⑥社務所前においては、舗装されていないマサ土の道である。マサ土の道は、ぬかるんだ場合、車いす、ベビーカーの通行が難しい。また、今回の調査ルート以外を通行する場合、急勾配の起伏も存在する。

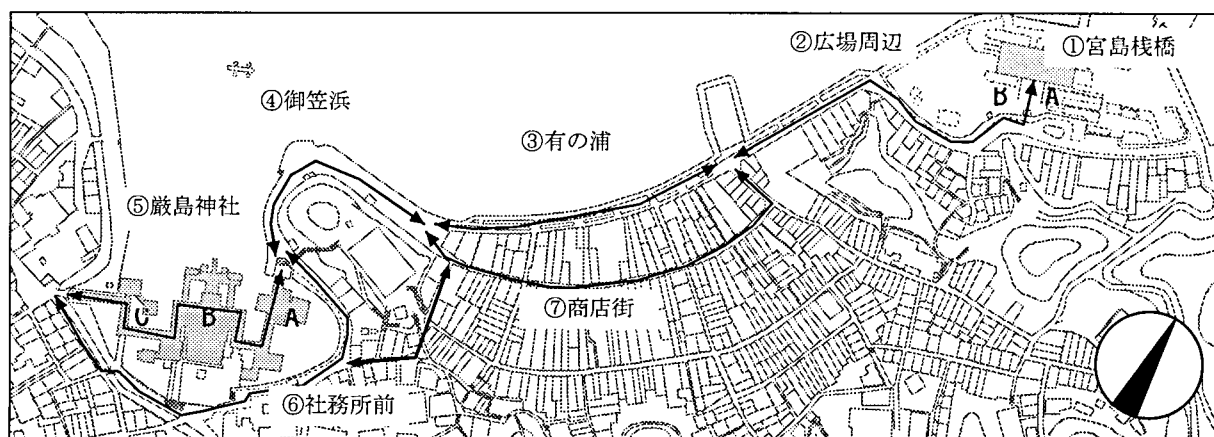


図1 調査ルート

表1 移動に関するバリアフリー整備実態

	評価項目	区間① フェリーターミナル		区間② 広場周辺	区間③ 有の浦	区間④ 御笠浜	区間⑤ 厳島神社			区間⑥ 社務所前		区間⑦ 商店街
		A	B				A	B	C	A	B	
		車いすの 主動線性	一般ルートが利用できるか	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	専用ルートの利用となるか	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
スロープ	スロープの有無	○	○	—	—	—	○	—	○	○	○	—
	スロープの勾配	×	×	—	—	—	×	—	×	×	×	—
	スロープの幅員(120cm以上)	○	○	—	—	—	○	—	○	○	○	—
	手すり	○	○	—	—	—	○	—	○	○	○	—
	仮設スロープ	—	—	—	—	—	○	○	○	—	—	—
階 段	手すり	—	—	—	—	—	○	—	—	×	×	—
	2段手すり	—	—	—	—	—	×	—	—	—	—	—
	手すりの位置(床から65~85cm)	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
	手すりの形状(丸型、直径4cm)	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
	踏面の端の色	—	—	—	—	—	○	—	—	×	×	—
	踏面・蹴上げ	—	—	—	—	—	×	—	—	×	×	—
安全対策	柵が設置してあるか	—	—	○	○	×	×	×	×	×	○	—
	明るさ	—	—	—	—	—	○	○	○	—	—	—

※1 屋内1/12以上、屋外1/20以上 ※2 踏面30cm以上、蹴上げ14cm以下

表2 案内表示等のわかりやすさの実態

	評価項目	区間① フェリーターミナル		区間② 広場周辺	区間③ 有の浦	区間④ 御笠浜	区間⑤ 厳島神社			区間⑥ 社務所前		区間⑦ 商店街
		A	B				A	B	C	A	B	
		経路のサイン	出入口からの経路	○	○	—	—	—	○	×	○	—
バリアフリールートの表示	×		○	—	—	—	○	×	○	○	○	—
図記号	×		×	—	—	—	×	×	×	○	○	—
英語・ローマ字表記	○		○	○	○	×	×	×	○	×	×	○
設備のサイン	階段・EV・ESのサイン	×	○	—	—	—	×	×	×	—	—	—
	バリアフリールートの表示	×	○	—	—	—	×	×	×	—	—	—
	図記号	○	○	—	—	○	×	×	×	—	—	—
	英語・ローマ字表記	○	○	—	—	○	×	×	×	—	—	—
	車いす用トイレのサイン	×	×	—	×	○	—	×	○	—	—	—
対外的情報発信	インターネット	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
車いすマップ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
英文パンフレット		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

表3 施設・設備の使いやすさの実態

	評価項目	区間① フェリーターミナル		区間② 広場周辺	区間③ 有の浦	区間④ 御笠浜	区間⑤ 厳島神社			区間⑥ 社務所前		区間⑦ 商店街
		A	B				A	B	C	A	B	
		ト イ レ	手すり	×	—	—	—	×	—	×	—	—
洋式トイレ	○		—	—	—	○	—	×	—	—	—	×
荷物置場	×		—	—	—	×	—	×	—	—	—	×
乳幼児対応	○		—	—	—	○	—	×	—	—	—	×
車いす用 ト イ レ	広さ	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
	出入口(80cm以上)	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
	手すり	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
	通報装置	×	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
公衆電話	車いす用蹴込み	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
	車いす用高さ(80cm)	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	×
水 飲 み	車いす用蹴込み	×	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—
	車いす用高さ(80cm)	×	—	×	—	—	—	—	—	—	—	—
ロッカー 荷物預かり	段差	○	—	—	—	—	×	×	×	—	—	—
	車いす用高さ(75cm)	○	—	—	—	—	×	×	×	—	—	—

2-2) 案内情報に関して

宮島のサインは、景観への配慮のためフェリーターミナルなど主要な位置には設置されているものの以外は、数は少なく、規模も小さい。市街地内は、住宅も密集し見通しのきかない場所もある。路地も入り組んでいるため今回の調査ルートから外れた場所を訪れようとする場合、案内図等がないと目的地に到達するのが難しいと思われる。

案内のデザインを統一するなど、わかりやすくするため改善の余地があるといえる。

2-3) 施設・設備に関して

フェリーターミナルは、概ね必要な設備が整っている。それ以外の場所においては、いくつかのトイレが設置されている程度である。宮島特有のものとして、鹿避けの柵が設置されているものがある。車いす利用者が単独でトイレを利用する際に、この柵は障害となっている。

3. 「まち点検」にみるバリアフリー対策

3-1) 「まち点検」について

「まち点検」とは、訪れた人に対して「人に優しいまち、宮島」を実現するために1989年～1997年の間に障害者とともに、宮島町住民課と宮島町身体障害者福祉協会とが合同で行った巡視である。これまで7回開催されている。この取り組みは宮島町総合福祉センターに登録している身体障害者の要望によって始まったものである。

点検の方法は、車いす利用者に付き添いながら、通行上の問題点を書きとめるという方法で行なわれた。宮島町身体障害者福祉協会、宮島町役場、宮島町社会福祉協議会の3つの団体が参加しており、それぞれの立場からみた点検を行なっている。

第1回、第2回は、棧橋から鳥居屋（巖島神社の裏手）までのバリアフリーニーズが高く観光客の最も多いと思われるルートを行った。2回目の点検は1回目で見落とされたことについて調べると同時に、1回目で見落とされた項目についての改善状況の確認を行った。その後、点検コースは拡大し、第4回目以降も点検するコースを拡大して

いる。第5、6、8、9回の点検コースの詳細は明らかではないが、宮島町役場に対するヒアリング調査によると、現在では観光客が通行するようなどころはほぼ網羅しているとのことである。

3-2) 点検後の対応について

「まち点検」を実施した後には報告書が作成され、改善できるものから順に整備している。現在では、この「まち点検」によって指摘されたものは、全て改善されている。

障害者の視点からみた「まち点検」を何度も行なうことにより、バリアフリー化への課題が広範囲において指摘され、改善へと繋がった。また、同じ点検コースを通ることで、その達成状況や利用状況を確認することができ、そのレベルも向上したものと考えられる。設備の劣化や破損等により問題点が新たに生じることも考えられるので、この取り組みの継続が必要である。

4. 観光客のバリアフリー整備に対する意識と評価

4-1) 観光客アンケートの回答者属性

回答者（観光客）の男女比はほぼ同数である。年齢層は、幅広く分布しており、50代が26.5%で最も多い。30代、40代、50代、60代がそれぞれ2割弱となっている。40代以上の中高年が中心で合

表4 回答者（観光客）性別

	本アンケート	動向調査
男性	52.3%	50.9%
女性	47.7%	48.9%

表5 回答者（観光客）年齢層

年代	比率	
	本アンケート	動向調査
10代	1.5%	7.4%
20代	11.0%	21.3%
30代	19.1%	13.1%
40代	16.9%	13.1%
50代	26.5%	20.2%
60代	17.6%	16.9%
70代以上	7.4%	8.0%

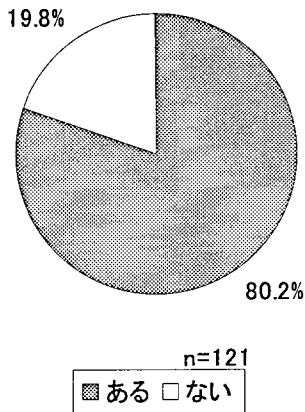


図2 バリアフリーに対する関心

わせて7割を占めている。居住地域は、中国地方が最も多く、41.9%となっている(表4、5参照)。

4-2) 観光客のバリアフリー整備の状況に対する意識

観光客のバリアフリーに対する関心については、約8割の人がバリアフリーに関心を示している。年齢層別にみると「40代」がもっとも関心が高いことがわかった(図2、3参照)。

また、バリアフリーが整備されている観光地に対して「訪れる意欲が高まる」と答えた人は、30.7%である。年齢層をみると「40代」がバリアフリーに対する関心が最も高く、訪問意欲も高いことが明らかとなった。

4-3) 宮島におけるバリアフリーの整備状況に対する観光客の評価

バリアフリーの整備状況を評価する14項目を設定し、それぞれの項目について「そう思う」「ややそう思う」「あまりそうは思わない」「そうは思わない」「わからない」の5つを選択肢とした平均評価得点を示している。この評価は、特定の場所についての結果を示すものではなく、宮島での観光を通してバリアフリー整備に対する宮島全体の印象を示すものである(図4参照)。

各項目についてみていくと、「街の中は歩きやすいか」から「階段の手すりは使いやすいか」までの移動に関する項目では、グラフの中心から左側に配置されている。言い換えれば、移動に関する評価は高いといえる。

「案内表示はわかりやすいか」から「地図・パンフレットはわかりやすいか」までの案内表示に

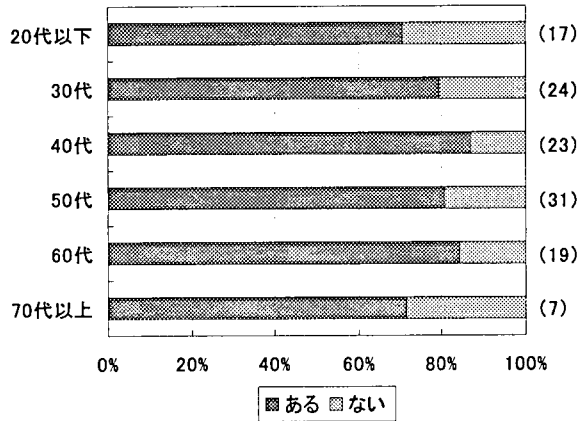


図3 年齢層とバリアフリーに対する関心

関する項目も同様に評価は高い。

評価が低くなっている項目は「安全対策は十分か」と「水飲み場は使いやすいか」「公衆電話は使いやすいか」のわずか3項目である。その中でも特に評価が低いのは「安全対策」である。「安全対策」は、宮島におけるバリアフリー整備の課題であると考えられる。

さらに、「わからない」と回答した人数に着目すると、「水飲み場」から「ロッカー」のトイレ以外の設備に関するものに対する回答が多くなっている。これらの項目は、他の項目に比べ、重要度は低いと考えられる。

4-4) 歴史的な観光地におけるバリアフリー整備の必要性について(観光客の意識)

観光地におけるバリアフリー整備については、多くの観光客もその必要性を感じていると思われる。一方、宮島のような歴史遺産を持つ観光地の

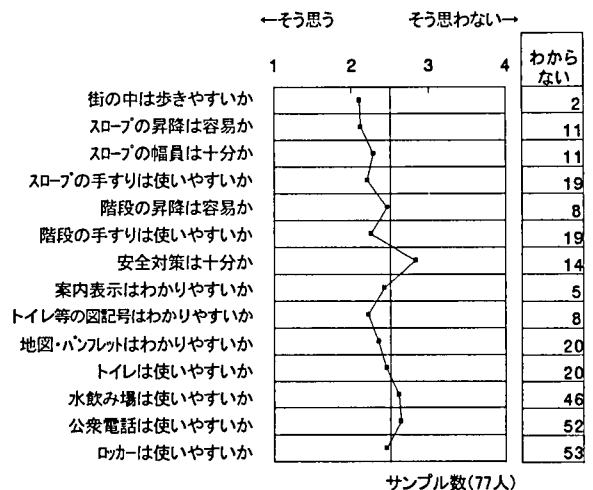


図4 バリアフリー整備に関する平均評価得点

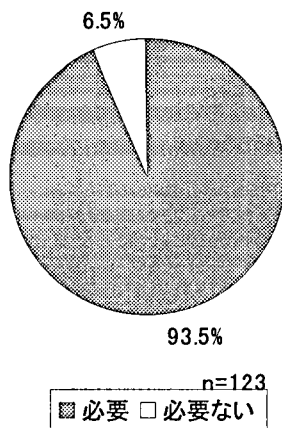


図5 観光客が思うの歴史的観光地におけるバリアフリーの必要性

バリアフリー整備の必要性についてはどのように感じているのだろうか。そこで「宮島のような歴史的遺産を持つ観光地におけるバリアフリー整備の必要性」について設問を設けてみた。その結果、「必要」と回答した人が93.5%と殆どの人が必要であると感じている（図5参照）。

その理由（図6参照）は、「様々な人が訪れることができるから」が最も多く72.8%であった。次に「安心して訪れることができるから」が61.6%、「観光地が様々な客を受け入れようとする姿勢に好感が持てるから」が52.7%となっており、この設問までの回答が過半数を超えている。次いで「整備されていて当たり前と思う」との39.3%となっている。その他の項目は、これらに比べ低く、「バリアフリー装置をよく利用しているから」と回答した人はわずかに8.9%であった。

必要性の理由として「様々な人が訪れることができるから」との回答が多いのは、歴史的遺産を持つ観光地においても一般の観光地と同様に例外なく幅広い層の観光客や身障者を受け入れるための整備の必要性を示していると考えられる。また、バリアフリー整備が施されていることによって「安心して訪れることができるから」といった回答も多く体の不自由の有無に関係せず重要視され、「観光地が様々な客を受け入れようとする姿勢に好感が持てるから」といった観光地のホスピタリティを重要視する傾向が読み取れる。

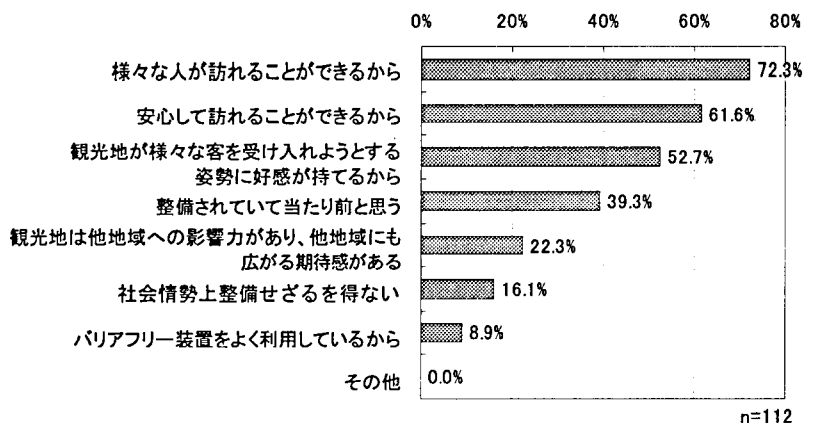


図6 歴史的観光地におけるバリアフリーの必要性（観光客・複数回答）

5. 住民のバリアフリー整備に対する意識と評価

5-1) 住民アンケートの回答者属性

住民アンケートの回答者の男女比は、ほぼ同じ。年齢層をみると、60代、70代が多くそれぞれ3割超で次いで50代が多い。回答者の7割が60代以上。居住年数は「20年以上」が約6割で最も多く、9割以上が10年以上の居住歴がある（図7参照）。

5-2) 住民のバリアフリーの整備状況に対する意識

住民のバリアフリーに対する関心の有無を図13に示す。「関心がある」と答えた人は81.9%という結果となった。バリアフリーが広く浸透し、関心がもたれていることが示された（図8参照）。

これを年齢層別（図表なし）にみると60代で最も高く85.7%となっており、60代をピークに山型のグラフになるという傾向を示している。

次にバリアフリーに関心がある理由を複数回答で記述してもらった結果（図表なし）、「将来、利用することになりそうだから」が最も多く69.9%である。次に「福祉に関心があるから」が40.8%で多く、「家族・知り合いにハンディを持つ人がいるから」が27.2%という結果となった。また「バリアフリー装置をよく利用するから」という回答は僅かに7.8%である。全体の傾向として、現在はあまり必要としていないが、将来のことを考えると避けては通れない問題であるといった意識がこの結果から読み取れる。

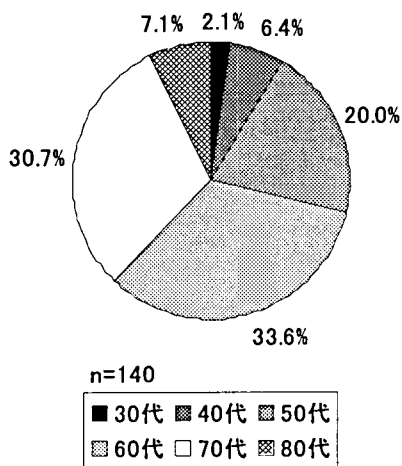


図7 回答者（住民）の年齢層

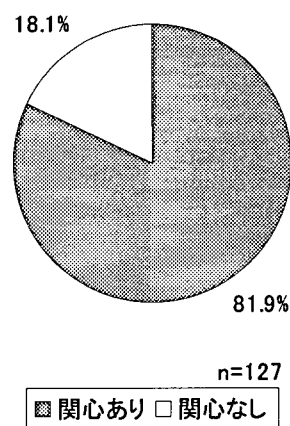


図8 バリアフリーに対する関心

バリアフリーに関心がある理由と年齢層の関係（図表無し）をみってみる。全体で最も多かった「将来利用することになりそうだから」が各年齢層で多く4つの年齢層で60%以上となっている。「福祉に関心があるから」は70代で高くなっている。また、「家族・知り合いにハンディを持つ人がいるから」は50代で高くなっている。バリアフリーに関心がある年代は60代が最も高かったが、その理由として「将来利用することになりそうだから」の割合が最も高い。他の項目についての回答が少ない。住民の60代の回答者にとっては、もはや他人事ではなくなっていると思われる。

5-3) 宮島におけるバリアフリー整備の状況に対する住民の評価

住民は、宮島内のバリアフリー整備に対してど

のように感じているのであろうか。そこで「宮島におけるバリアフリーは日常生活での外出に役立っていますか」という設問を設けた。（図9）にその結果を示す。最も多いのが「少し役立っている」で39.0%である。残りの3項目では2割程度という結果となった。「役立っている」「役立っていない」の2つに分けてみるなら、過半数の人が「役立っている」と感じていることになる。これを年齢層別にみると40代～70代では年齢層が上がるにつれ「役立っている」と感じる人の割合が増加する傾向が読み取れる。

観光客と同様に住民に対しても宮島のバリアフリーの整備状況を14項目について評価してもらった。（図10）に平均評価得点を示す。平均値は「わからない」を除いて算出している。

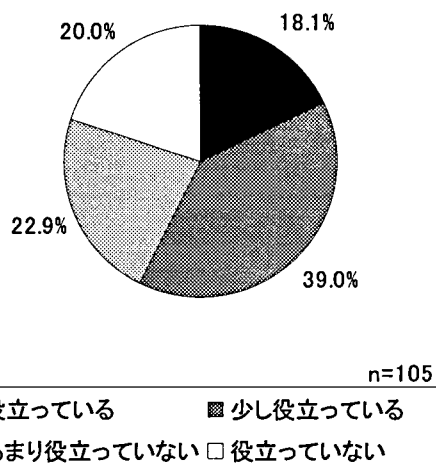


図9 バリアフリーの利用状況

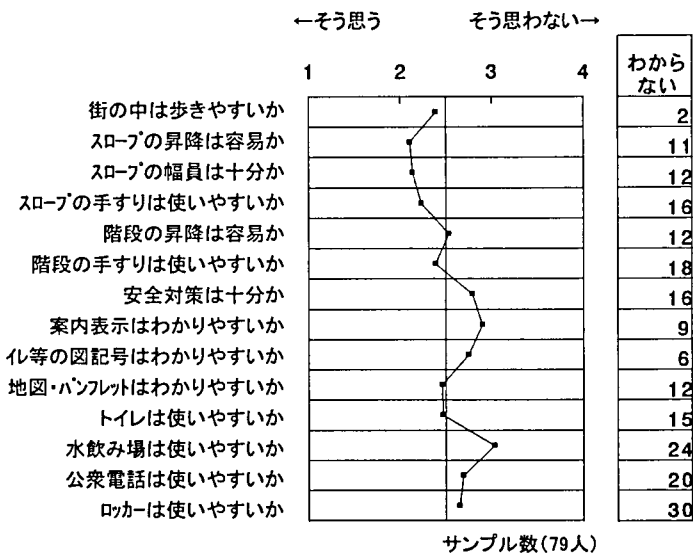


図10 平均評価得点

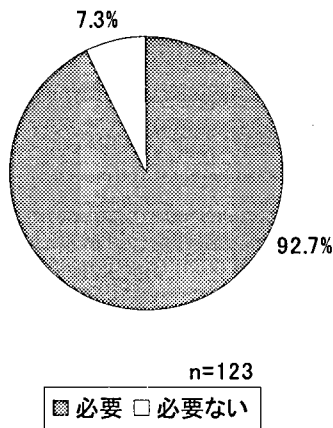


図11 歴史的観光地におけるバリアフリーの必要性 (住民)

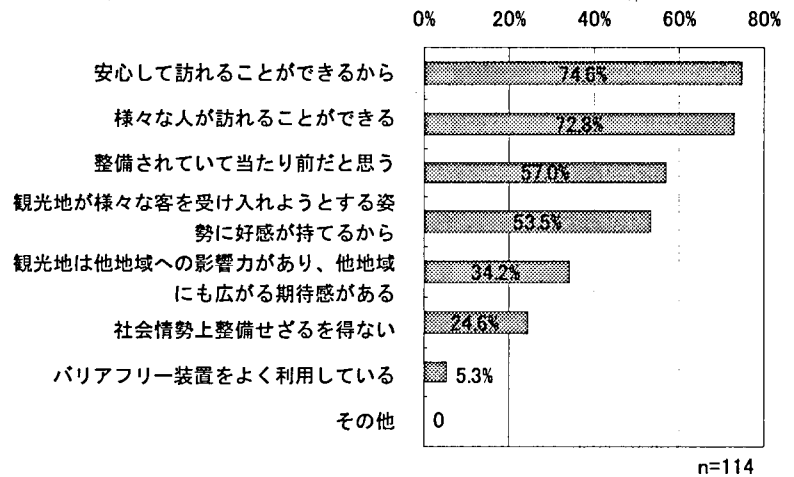


図12 歴史的観光地におけるバリアフリー必要と答えた人の理由 (住民・複数回答)

各項目順についてみていくと、「街の中は歩きやすいか」から「階段の手すりは使いやすいか」までの移動に関する項目では肯定的な評価であり、「階段の昇降は容易か」のみ否定的評価である。また「安全対策は十分か」及び、「案内表示はわかりやすいか」から「トイレ等の図記号はわかりやすいか」までの案内に関する項目は否定的な評価となっている。「公衆トイレは使いやすいか」から「ロッカーは使いやすいか」までの設備に関する項目についても否定的な評価である。

次に平均評価得点についてみる (図表なし)。「街の中は歩きやすいか」では60代の評価が高くなっているが、70代以上の評価が低くなっている。60代の評価は全体的に高くなっており、「階段の昇降は容易か」「安全対策は十分か」「トイレ等の図記号はわかりやすいか」の項目に対して、特に現れている。

50代以下は移動に関する項目以外、ほとんどの項目について最も低い評価となっている。

自由記述では、移動に関する意見が最も多く、特に道路に関するものが多かった。町家通りは狭い上に車が多く歩きにくいといった意見は数多くみられた。案内情報に関しては、案内板が見えにくい、地元のものが見てもわかりにくいという意見が寄せられるなど課題が抽出された。

5-4) 歴史的な観光地におけるバリアフリー整備の必要性について (住民の意識)

宮島のような歴史的観光地においてもバリアフ

リーが「必要」であると答えた人は92.7%にのぼり、ほとんどの人が必要であると感じている (図11参照)。その理由について (図12) に示す。「安心して訪れることができる」が最も多く、74.6%であった。次に、「様々な人が訪れることができるから」が72.8%となっており、この2つが突出している。「整備されていて当たり前だと思う」が多く57.0%、「観光地が様々な客を受け入れようとする姿勢に好感が持てるから」が53.5%となっており、以上4つの項目が過半数を超えている。

住民アンケートの回答者の中には、体が不自由であると回答した人は少なく「バリアフリー装置を良く利用している」という回答者も5.3%と少ない。しかし、必要の理由として「安心して訪れることができる」と「様々な人が訪れることができるから」を選択した者が多いことは、回答者自身の将来のことを考慮したためであると思われる。また、「整備されていて当たり前だと思う」が3番目に多く、住民のバリアフリー整備に対する期待の高さがうかがえる。

5-5) 今後のまちづくりの方向性について

住民は、今後どのようなまちづくりを望んでいるのであろうか。観光と福祉のバランスについてどのような意向があるのかを探ったものである。その結果が (図13) になる。「観光と福祉の2本柱でまちづくりを進めて欲しい」が最も多く49.2%であった。次いで多いのが、「観光中心で

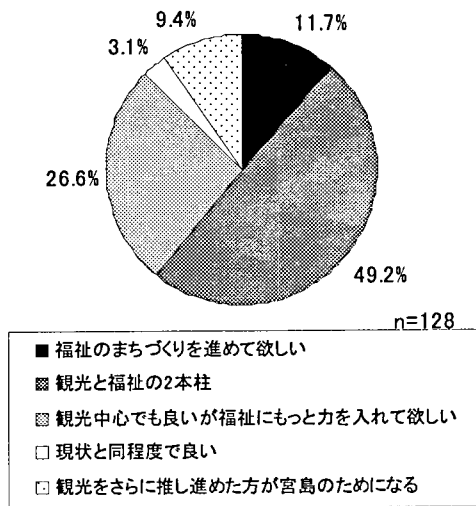


図13 今後のまちづくりの方向性

もよいが福祉にもっと力を入れて欲しい(26.6%)というものであった。「福祉のまちづくりを進めて欲しい」「観光をさらに推し進めた方が宮島のためになる」という両極端な回答はそれぞれ1割程度の回答であった。

6. まとめ

6-1) 宮島におけるバリアフリー整備状況について

- ・[移動に関して]: 今回の調査ルートのような一般的な観光ルートにおいて特にレベル差が認められる箇所は、少なく、それぞれの段差は、スロープなどで対応している。今回の調査対象経路以外を通行する場合は、急勾配の起伏も存在する。
- ・[案内情報に関して]: 宮島のサインは、景観へ配慮しているため主要な位置に設置されているもの以外は、数が少ない。また、大きさ、設置位置の問題で、わかりにくい。今回の調査ルートから外れた場所を訪れようとする場合、市街地部分は密集し見通しのきかない場所もあり、路地も入り組んでいるため案内図等がないと目的地に到達するのが難しい。今後デザインを統一するなど、わかりやすくするため改善の余地があるといえる。
- ・[施設・設備に関して]: フェリーターミナルなどには、設備が概ね完備している。宮島特有の

ものとして、鹿避けの柵が設置されている。車いす利用者が単独でトイレを利用するには障害がある。トイレなどの設備は、国立公園内の広島県の管理となるため町設置の設備とのデザインや仕様に統一性を持たせることが難しい。

- ・[まち点検による巡視について]: 「まち点検」など・障害者の視点からみたバリアフリー整備を行なうことは評価できる。また「まち点検」を繰り返し行うことにより、バリアフリー化への問題点が広範囲において指摘され、改善へと繋がった。

6-2) バリアフリー整備に対する観光客と住民の意識と評価について

- ・観光客、住民ともにバリアフリーに対する関心は約8割以上と高い。
- ・バリアフリーに関心があるとする理由については、住民の3割近くが「将来利用することになりそうだから」としている。住民にとってバリアフリーは身近に迫った問題として捉えられている。
- ・宮島のバリアフリー整備の状況に対する評価は、移動に関しては観光客、住民ともに肯定的な評価になっている。案内情報に関しては意見が分かれ、住民は否定的評価をしている。設備に関しては、回答者数が少なく、評価は低くなっており改善必要であることが示唆される。安全対策については両者とも低い。全体的に住民の評価が低い。
- ・観光客、住民の両者からみたバリアフリー整備の中で重要である機能は、「トイレの充実」、「街の中の歩きやすさ」など移動のしやすさ、「安全対策」の充実であった。また、住民は「案内表示」の充実を挙げ、観光客は、スロープなどの移動のしやすさについて重要であるとしている。
- ・アンケート内の自由記述では、移動に関しての意見が観光客から多く寄せられている。案内表示に関しては、住民から倒壊、老朽化などが案内の不備を指摘されている。案内内容については、観光客の方が充実を希望している。設備に関しても、住民の方が設備の不備を指摘し、観

光客は、具体的な機能や整備の充実を希望している。

6-3) 歴史的遺産を持つ観光地におけるバリアフリー整備の必要性について

- ・歴史的観光地におけるバリアフリー整備は、観光客・住民ともに9割以上が必要であると感じている
- ・必要であると考え理由では、両者ともに、「様々な人が安心して訪れることができる」「安心して訪れることができる」「観光地の様々な客を受け入れようとする姿勢に好感が持てる」が高くなっており、住民は「整備されていて当たり前だと思う」との理由も高く、バリアフリーに対する期待も高い。

6-4) 宮島住民の街づくりに対する意向について

- ・宮島の住民にとって現在のバリアフリー整備の状況が「生活時に役に立っている」と回答したのは、2割に満たない。「少し役に立っている」との合計では57.1%となる。将来の街づくりに対する意向では、49.2%の人が「観光と福祉の2本立」を望んでいる。次に「観光中心でもよいが福祉にも力を入れてほしい」との回答も多くなっている。

注記

本稿は、既論文、上村信行「中国地方の歴史的建造物のバリアフリー整備に関する研究」（日本

建築学会中国支部研究報告集計画系25巻 No713, p841-844, 2002,)、上村信行「歴史的市街地における歴史的風土の保全と地域振興（その27）世界遺産におけるバリアフリー整備のやさしさ評価に関する研究1（日本建築学会中国支部研究報告集計画系26巻、p885～P898）、関口功、村川三郎、上村信行「観光地におけるバリアフリーの実態とその評価に関する研究－広島県宮島町における観光客・住民意識調査に基づく分析」（日本建築学会中国支部研究報告集計画系27巻、p821～P824）の一部に調査課程での知見を加え再編したものである。

主要参考文献

- 1) 日本経済団体連合会2000「21世紀のわが国観光のあり方に関する提言－新しい国づくりのために－」
<http://www.keidanren.or.jp/japanese/policy/2000/051/gaiyo.pdf>
- 2) 宮島町身体障害者福祉協会 1998 『第7回まち点検事業について（報告）』
- 3) 浅野敏久、フंक・カロリン 2001 『瀬戸内観光地域の形成と変容－宮島としまなみ海道を事例として－』
- 4) 平成16年度日本ナショナルトラスト観光資源調査「厳島神社門前町（安芸の宮島）」